

# 但馬管内の景気動向調査

2018年10～12月期実績・2019年1～3月期見通し

【特別調査 2019年の経営見通しについて】

## 調査の概要

1. 回答数：292（前回：394）
  2. 調査時点 2018年12月上旬  
なお、米中貿易戦争や年末年始に発生したアップルの販売不振による市場変動の影響は勘案しておりません。
  3. 当金庫 営業店の調査員による、共通の調査表に基づく聴取り調査
  4. 分析方法：ディフュージョン・インデックス（D. I.）  
景気の各項目事項について、「増加」（良い）－「減少」（悪い）の構成比の差＝判断D. I.に基づく分析
- ※全国とは、信用金庫の中央機関である信金中金が全国各地の信用金庫から調査した調査の結果を示している。



但馬信用金庫

## 1. 概況（回答数292 前回394）

今回(10月～12月期)の業況D.I.は△3.8、前四半期比10.5ポイント改善し、大幅な改善となった。前回調査では各D.I.が軒並みマイナス傾向にあったが、今回調査では、売上額D.I.が前回調査比17.1ポイント改善し、収益D.I.が前回調査比8.2ポイント改善したことにより、業況D.I.を含め多くのD.I.が改善した。しかしながら、人手過不足D.I.は△29.6と前回調査時より更に4.4ポイント悪化しており、全業種で人手不足が深刻な問題となりつつある。

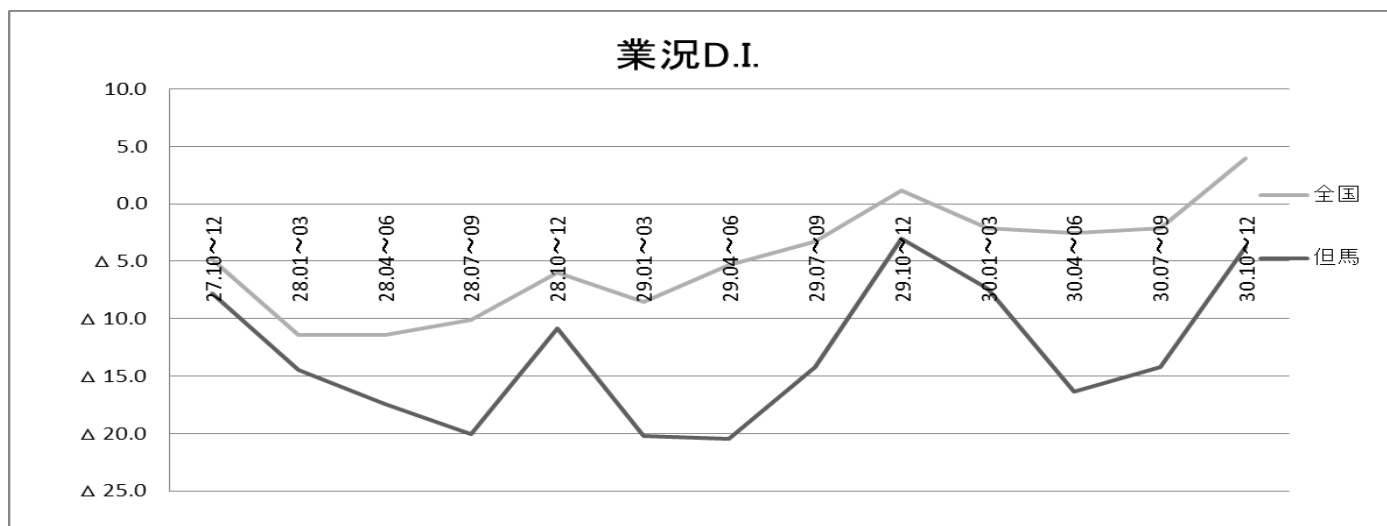
また、全国との比較では、但馬エリアを取り巻く経営環境の厳しさは続いており、次回(1月～3月)四半期予想でも、業況D.I.は△12.2ポイント(全国△2.3を見込む)と引続き厳しい予想である。

全体	2018年10～12月期実績	前四半期比	2019年1～3月期予想
業況D. I.	△ 3.8	10.5	△ 12.2
前年同期比売上額D. I.	△ 11.3	△ 1.2	-
前年同期比収益D. I.	△ 14.8	△ 2.1	-
売上額D. I.	13.0	17.1	△ 14.7
収益D. I.	5.1	8.2	△ 14.0
資金繰りD. I.	△ 16.8	△ 0.6	△ 17.5
借入金の難易度D. I.	△ 7.8	1.1	-
前期比残業時間D. I.	7.2	7.7	△ 1.7
人手過不足D. I.	△ 29.6	△ 4.4	△ 31.3

業種名 \ 時期	2018年 7～9月	2018年 10～12月	2019年 1～3月(見通し)
総合			
製造業			
建設業			
卸売業			
小売業			
不動産業			
サービス業			

(この天気図は、過去1年の景気指標を総合的に判断して作成したものです。)

好調 ← → 低調



## 2. 製造業（回答数56 前回74）

今回の調査で業況 D.I.は 3.6 ポイントとなり、前四半期比 18.4 ポイントの改善となった。要因としては、受注残 D.I.・原材料価格 D.I.・販売価格 D.I.の改善により、売上額 D.I.・収益 D.I.が改善されたことが大きい。また、業況 D.I.の改善により資金繰り D.I.についてもマイナスながら改善傾向にあり、設備投資 D.I.では 46.4 ポイントと高い水準となった。一方、人手過不足 D.I.は△39.3 ポイントと前四半期比 8.2 ポイント悪化しており、製造業でも人手不足感が否めない。1 月～3 月期予想では、原材料価格・販売価格の改善は見込まれるが、人手過不足 D.I.は依然△37.5 ポイントと悪く、業況 D.I.は 5.4 ポイントと小幅な改善を予想する。

製造業	2018年10～12月期実績	前四半期比	2019年1～3月期予想
業況D. I.	3.6	18.4	5.4
前年同期比売上額D. I.	0.0	9.5	-
前年同期比収益D. I.	0.0	14.9	-
売上額D. I.	28.6	47.5	△ 8.9
受注残D. I.	16.1	29.6	0.0
収益D. I.	14.3	35.9	△ 1.8
販売価格D. I.	16.1	14.7	7.1
原材料価格D. I.	35.7	14.1	21.4
原材料在庫D. I.	0.0	△ 2.7	△ 5.4
資金繰りD. I.	△ 7.1	3.7	△ 3.6
借入金の難易度D. I.	5.4	5.4	-
前期比残業時間D. I.	25.0	29.1	8.9
人手過不足D. I.	△ 39.3	△ 8.2	△ 37.5
現在の設備D. I.	△ 23.2	△ 9.5	-
設備投資D. I.	46.4	7.2	-
来期設備投資D. I.	41.1	5.9	-

## 3. 建設業（回答数67 前回83）

今回の調査で業況 D.I.は 9.2 ポイントとなり、前四半期比 12.9 ポイントの改善となった。要因としては、受注残 D.I.・請負価格 D.I.の改善により、売上額 D.I.・収益 D.I.が改善されたことが大きい。しかしながら、借入金難易度は悪化しており、資金繰り D.I.も前四半期より悪化している。人手過不足 D.I.は△35.8 であり、建設業界でも人手不足感が否めない。1 月～3 月期予想では、受注残 D.I.・人手過不足 D.I.が△20 ポイントを下回る予想であり、人手不足による受注残、施工高の減少から売上額 D.I.の減少が見込まれ、業況 D.I.では△15.4 ポイントまで悪化する見通しである。

建設業	2018年10～12月期実績	前四半期比	2019年1～3月期予想
業況D. I.	9.2	12.9	△ 15.4
前年同期比売上額D. I.	△ 9.1	△ 9.1	-
前年同期比収益D. I.	△ 15.2	△ 17.6	-
売上額D. I.	11.9	9.5	△ 17.9
受注残D. I.	4.5	8.1	△ 23.9
施工高D. I.	9.0	1.7	△ 19.4
収益D. I.	9.0	1.7	△ 14.9
請負価格D. I.	7.5	7.5	△ 6.0
材料価格D. I.	14.9	△ 0.7	10.4
在庫D. I.	△ 3.0	△ 0.6	0.0
資金繰りD. I.	△ 17.9	△ 2.2	△ 14.9
借入金の難易度D. I.	△ 12.7	△ 10.3	-
前期比残業時間D. I.	7.5	2.6	3.0
人手過不足D. I.	△ 35.8	0.3	△ 37.3
現在の設備D. I.	△ 12.1	△ 6.1	-
設備投資D. I.	26.9	1.6	-
来期設備投資D. I.	28.4	4.3	-

## 4. 卸売業（回答数31 前回45）

今回の調査で業況 D.I. が 3.2 ポイントとなり、前四半期比で 45.4 ポイントの大幅な改善となった。要因は、販売価格 D.I.・仕入価格 D.I.・在庫 D.I.が軒並み改善され、売上額 D.I.・収益 D.I.が大幅に上振れしたことが大きい。しかしながら業況の改善に資金繰りが追いつかず資金繰り D.I.では△22.6 ポイントと、前四半期比 13.7 ポイント悪化している。1 月～3 月期予想では、資金繰りは若干改善の兆しであるが、売上額 D.I.・収益 D.I.の悪化から業況 D.I. は△20 ポイントまで悪化する見通しである。

卸売業	2018年10～12月期実績	前四半期比	2019年1～3月期予想
業況D. I.	3.2	45.4	△ 20.0
前年同期比売上額D. I.	△ 12.9	2.7	-
前年同期比収益D. I.	△ 19.4	△ 3.8	-
前年同期比販売価格D. I.	22.6	2.6	-
売上額D. I.	41.9	57.5	△ 19.4
収益D. I.	32.3	41.1	△ 16.1
販売価格D. I.	35.5	19.9	12.9
仕入価格D. I.	38.7	23.2	19.4
在庫D. I.	22.6	11.5	9.7
資金繰りD. I.	△ 22.6	△ 13.7	△ 16.1
借入金の難易度D. I.	△ 3.6	12.0	-
前期比残業時間D. I.	10.0	10.0	△ 6.7
人手過不足D. I.	△ 3.2	△ 3.2	△ 3.2
現在の設備D. I.	△ 6.5	2.4	-
設備投資D. I.	29.0	2.4	-
来期設備投資D. I.	25.8	3.6	-

## 5. 小売業（回答数39 前回45）

今回の調査で業況 D.I. が△25.6 ポイントとなり、前四半期比で 12.1 ポイントの改善となった。要因としては、資金繰り D.I.・借入金難易度 D.I. の改善により、仕入価格 D.I.・販売価格 D.I. が改善したことが大きい。しかしながら、収益 D.I. は前四半期比 19 ポイント悪化しており、仕入価格を販売価格に転嫁する傾向にはあるものの、売上が伴っていない現状が窺える。1 月～3 月期予想では、仕入価格の悪化、販売価格への転嫁不足、人手不足等が影響し、売上額 D.I.・収益 D.I. は大幅に減少が予想される。資金繰り D.I. にも影響が大きいと予想され、業況 D.I. では△38.5 ポイントまで悪化する見通しである。

小売業	2018年10～12月期実績		2019年1～3月期予想
		前四半期比	
業況D.I.	△ 25.6	12.1	△ 38.5
前年同期比売上額D.I.	△ 28.2	0.7	-
前年同期比収益D.I.	△ 23.1	8.0	-
前年同期比販売価格D.I.	5.1	△ 6.0	-
売上額D.I.	△ 20.5	△ 5.0	△ 35.9
収益D.I.	△ 25.6	△ 19.0	△ 30.8
販売価格D.I.	17.9	13.5	△ 12.8
仕入価格D.I.	25.6	3.4	△ 5.1
在庫D.I.	△ 2.6	△ 9.3	△ 5.3
資金繰りD.I.	△ 26.3	13.7	△ 36.8
借入金の難易度D.I.	△ 10.3	16.4	-
前期比残業時間D.I.	△ 15.4	△ 6.5	△ 17.9
人手過不足D.I.	△ 21.1	△ 5.5	△ 26.3
現在の設備D.I.	△ 7.7	5.6	-
設備投資D.I.	23.1	0.9	-
来期設備投資D.I.	25.6	△ 1.0	-

## 6. 不動産業（回答数8 前回13）

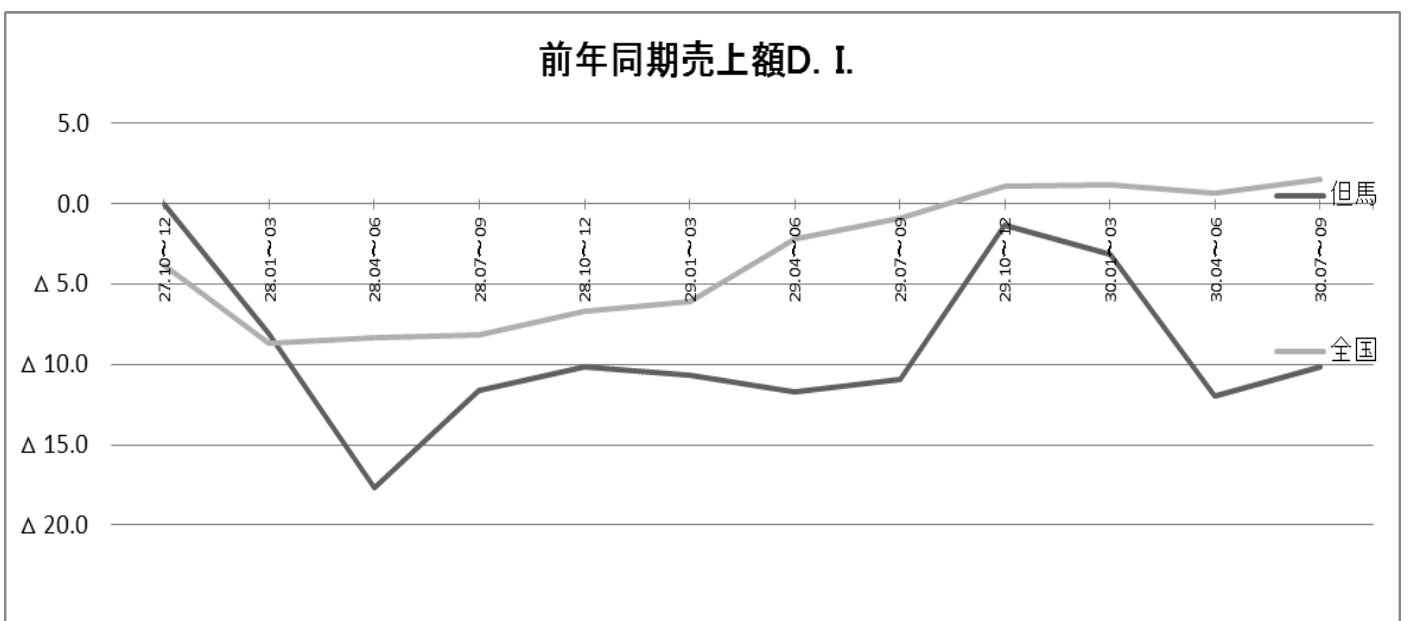
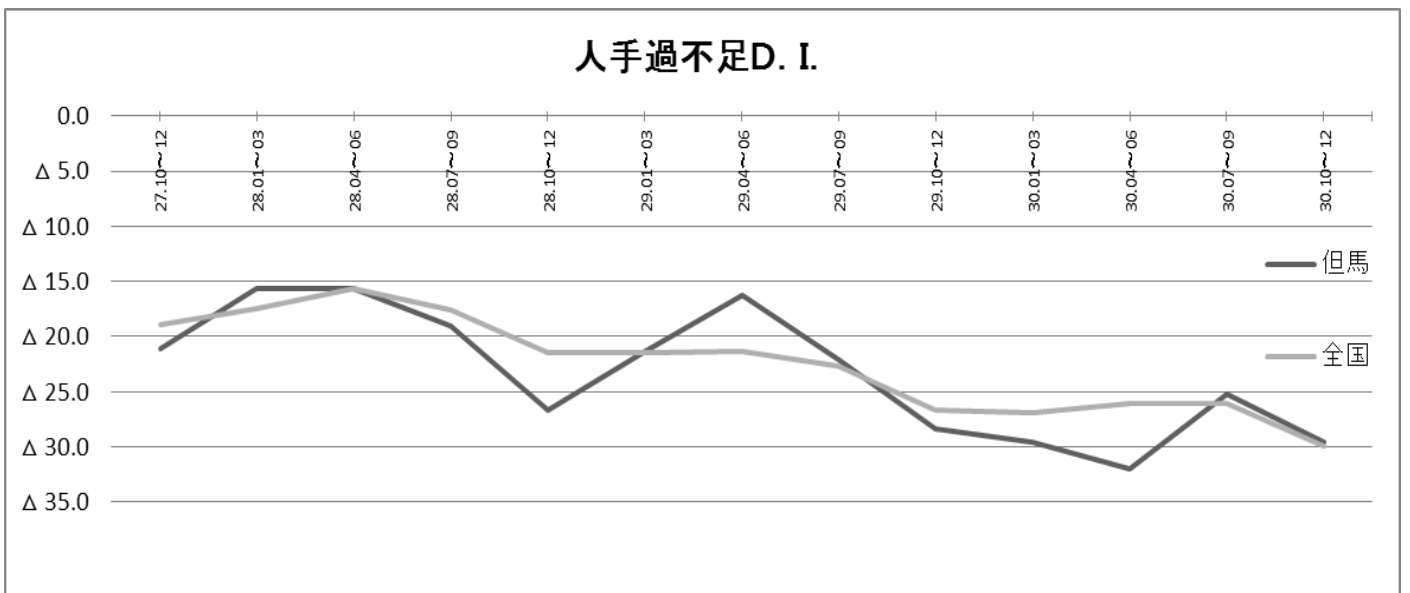
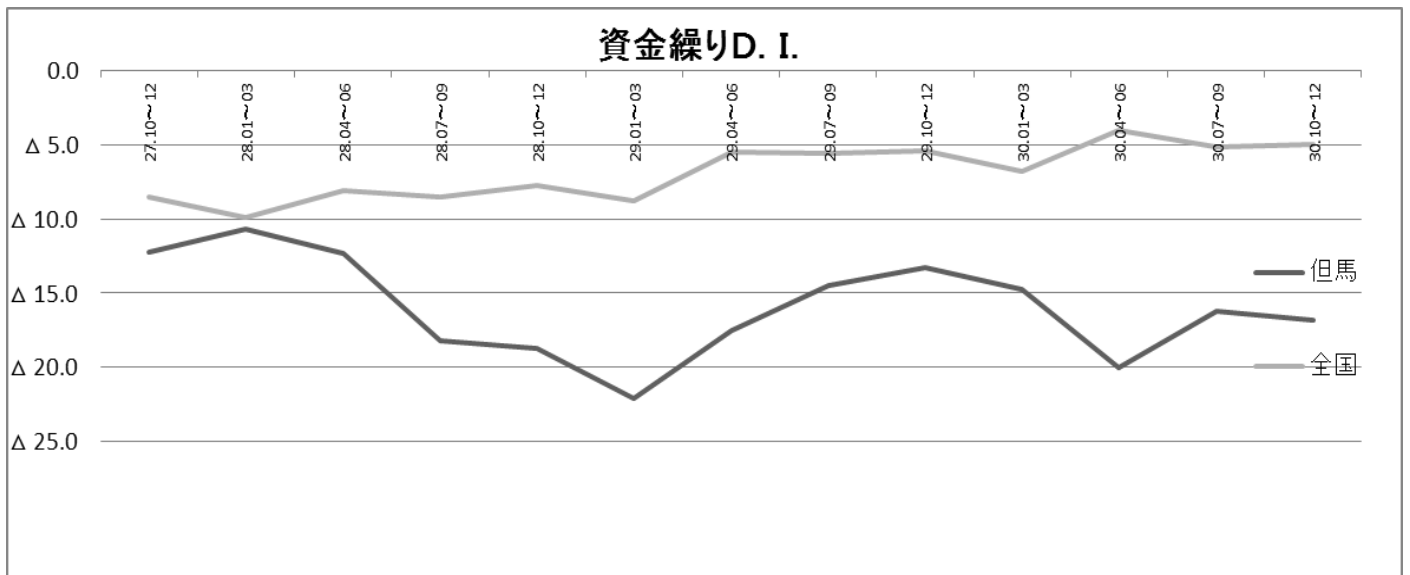
今回の調査で業況 D.I. が 12.5 ポイントとなり、前四半期比 20.2 ポイント改善した。要因は、売上額 D.I. を維持し、収益 D.I. の改善を図ったことが影響したとみられる。一方、依然借入金難易度は△33.3 ポイントと高い水準にあり、在庫圧縮が急がれる状況にある。1 月～3 月期予想では、現状程度の売上額、収益が予想され、業況 D.I. では 12.5 ポイントを維持する見通しである。

不動産業	2018年10～12月期実績		2019年1～3月期予想
		前四半期比	
業況D.I.	12.5	20.2	12.5
前年同期比売上額D.I.	12.5	43.3	-
前年同期比収益D.I.	12.5	35.6	-
売上額D.I.	0.0	0.0	0.0
収益D.I.	0.0	7.7	0.0
販売価格D.I.	0.0	0.0	0.0
仕入価格D.I.	0.0	0.0	0.0
在庫D.I.	△ 12.5	△ 2.5	△ 12.5
資金繰りD.I.	0.0	△ 7.7	0.0
借入金の難易度D.I.	△ 33.3	△ 33.3	-
前期比残業時間D.I.	0.0	△ 8.3	0.0
人手過不足D.I.	△ 12.5	△ 4.8	△ 12.5

## 7. サービス業（回答数91 前回134）

今回の調査で業況 D.I. が△12.1 ポイントとなり、前四半期比で 8.4 ポイント悪化した。要因は、売上額 D.I. では小幅な改善としたものの、人手過不足 D.I. は△33.0 ポイントと高い水準にあり、人手不足が深刻な問題となりつつある。1 月～3 月期予想では、材料価格の改善は見込めるものの、人手過不足から売上額 D.I.・収益 D.I.・資金繰り D.I. は軒並み悪化が予想され、業況 D.I. では△8.9 ポイントと小幅な改善に留まる見通しである。

サービス業	2018年10～12月期実績		2019年1～3月期予想
		前四半期比	
業況D.I.	△ 12.1	△ 8.4	△ 8.9
前年同期比売上額D.I.	△ 14.3	△ 7.6	-
前年同期比収益D.I.	△ 20.9	△ 8.2	-
売上額D.I.	9.9	2.4	△ 6.6
収益D.I.	1.1	△ 3.4	△ 14.3
料金価格D.I.	5.5	△ 0.5	△ 2.2
材料価格D.I.	15.6	△ 3.1	11.1
資金繰りD.I.	△ 17.6	△ 1.2	△ 22.0
借入金の難易度D.I.	△ 11.2	△ 0.8	-
前期比残業時間D.I.	7.7	6.9	△ 3.3
人手過不足D.I.	△ 33.0	△ 4.4	△ 36.3
現在の設備D.I.	△ 29.7	△ 11.0	-
設備投資D.I.	26.4	3.2	-
来期設備投資D.I.	17.6	△ 7.8	-



## 業種別DI等の推移表

製造業	前年同期に比べた											前期比 残業時間	人手	借入金の 難易度	現在の 設備	設備投資 実施割合
	業況	売上額	収益	売上額	受注残	収益	販売価格	原材料価格	原材料在庫	資金繰り	資金繰り					
29.10~12	14.1	6.5	4.3	20.4	20.4	10.8	10.9	37.0	4.3	△ 3.2	17.2	△ 38.0	8.6	△ 23.9	37.6	
30.01~03	△ 7.4	△ 1.2	△ 1.2	△ 14.8	△ 11.1	△ 16.0	12.5	39.5	1.2	△ 7.4	1.2	△ 30.9	12.3	△ 22.2	40.7	
30.04~06	△ 4.2	1.4	△ 7.0	△ 12.7	△ 12.9	△ 7.0	1.4	50.7	8.5	△ 16.9	△ 8.5	△ 38.0	7.1	△ 24.3	46.5	
30.07~09	△ 14.9	△ 9.5	△ 14.9	△ 18.9	△ 13.5	△ 21.6	1.4	21.6	2.7	△ 10.8	△ 4.1	△ 31.1	0.0	△ 13.7	39.2	
30.10~12	3.6	0.0	0.0	28.6	16.1	14.3	16.1	35.7	0.0	△ 7.1	25.0	△ 39.3	5.4	△ 23.2	46.4	
31.01~03	5.4															

建設業	前年同期に比べた											前期比 残業時間	人手	借入金の 難易度	現在の 設備	設備投資 実施割合
	業況	売上額	収益	売上額	受注残	施行高	収益	請負価格	材料価格	在庫	資金繰り					
29.10~12	△ 1.0	8.2	2.0	13.1	7.1	7.1	2.0	△ 1.0	20.2	△ 3.1	0.0	△ 4.0	△ 31.3	△ 7.2	△ 18.2	30.3
30.01~03	△ 6.7	7.9	△ 6.7	1.1	1.1	△ 1.1	△ 10.2	△ 4.4	18.0	△ 6.8	△ 13.3	1.1	△ 30.0	2.4	△ 10.1	28.9
30.04~06	△ 15.5	△ 5.7	△ 16.1	△ 1.2	△ 2.3	0.0	△ 9.2	△ 18.4	27.6	△ 5.8	△ 9.2	2.3	△ 33.7	2.4	△ 9.2	28.7
30.07~09	△ 3.7	0.0	2.4	2.4	△ 3.6	7.2	7.2	0.0	15.7	△ 2.4	△ 15.7	4.8	△ 36.1	△ 2.4	△ 6.0	25.3
30.10~12	9.2	△ 9.1	△ 15.2	11.9	4.5	9.0	9.0	7.5	14.9	△ 3.0	△ 17.9	7.5	△ 35.8	△ 12.7	△ 12.1	26.9
31.01~03	△ 15.4															

卸売業	前年同期に比べた											前期比 残業時間	人手	借入金の 難易度	現在の 設備	設備投資 実施割合
	業況	売上額	収益	販売価格	売上額	収益	販売価格	仕入価格	在庫	資金繰り	資金繰り					
29.10~12	△ 12.5	△ 22.4	△ 18.6	3.4	5.1	12.1	8.5	28.8	8.5	△ 16.9	△ 3.4	△ 18.6	△ 10.3	△ 13.6	32.2	
30.01~03	△ 21.8	△ 23.6	△ 25.5	14.5	△ 20.0	△ 25.5	12.7	23.6	9.1	△ 7.3	△ 5.5	△ 20.0	△ 9.1	△ 5.5	30.9	
30.04~06	△ 32.3	△ 3.2	△ 16.1	19.4	△ 12.9	△ 32.3	19.4	19.4	16.1	△ 9.7	0.0	△ 22.6	△ 3.2	△ 9.7	41.9	
30.07~09	△ 42.2	△ 15.6	△ 15.6	20.0	△ 15.6	△ 8.9	15.6	15.6	11.1	△ 8.9	0.0	0.0	△ 15.6	△ 8.9	26.7	
30.10~12	3.2	△ 12.9	△ 19.4	22.6	41.9	32.3	35.5	38.7	22.6	△ 22.6	10.0	△ 3.2	△ 3.6	△ 6.5	29.0	
31.01~03	△ 20.0															

小売業	前年同期に比べた											前期比 残業時間	人手	借入金の 難易度	現在の 設備	設備投資 実施割合
	業況	売上額	収益	販売価格	売上額	収益	販売価格	仕入価格	在庫	資金繰り	資金繰り					
29.10~12	△ 21.3	△ 13.6	△ 17.3	11.3	7.6	△ 1.3	11.1	27.2	12.3	△ 37.0	△ 4.9	△ 12.3	△ 14.8	△ 9.9	29.6	
30.01~03	△ 23.9	△ 30.9	△ 35.3	13.2	△ 22.1	△ 20.6	13.2	23.5	△ 1.5	△ 47.1	3.0	△ 28.4	△ 19.7	△ 20.9	30.9	
30.04~06	△ 31.6	△ 31.0	△ 37.9	24.1	△ 31.0	△ 34.5	19.0	27.6	3.4	△ 32.8	△ 3.5	△ 26.3	△ 5.5	△ 15.8	29.3	
30.07~09	△ 37.8	△ 28.9	△ 31.1	11.1	△ 15.6	△ 6.7	4.4	22.2	6.7	△ 40.0	△ 8.9	△ 15.6	△ 26.7	△ 13.3	22.2	
30.10~12	△ 25.6	△ 28.2	△ 23.1	5.1	△ 20.5	△ 25.6	17.9	25.6	△ 2.6	△ 26.3	△ 15.4	△ 21.1	△ 10.3	△ 7.7	23.1	
31.01~03	△ 38.5															

不動産業	前年同期に比べた											前期比 残業時間	借入金の 難易度
	業況	売上額	収益	売上額	収益	販売価格	仕入価格	在庫	資金繰り	資金繰り			
29.10~12	5.6	△ 16.7	△ 22.2	5.6	5.6	△ 11.8	△ 11.8	△ 5.9	5.6	5.6	△ 5.6	△ 11.1	
30.01~03	25.0	8.3	8.3	8.3	8.3	△ 8.3	0.0	△ 8.3	0.0	8.3	△ 25.0	0.0	
30.04~06	0.0	△ 8.3	△ 16.7	8.3	8.3	0.0	0.0	△ 18.2	0.0	0.0	△ 16.7	0.0	
30.07~09	△ 7.7	△ 30.8	△ 23.1	0.0	△ 7.7	0.0	0.0	△ 10.0	7.7	8.3	△ 7.7	0.0	
30.10~12	12.5	12.5	12.5	0.0	0.0	0.0	0.0	△ 12.5	0.0	0.0	△ 12.5	△ 33.3	
31.01~03	12.5												

サービス業	前年同期に比べた											前期比 残業時間	人手	借入金の 難易度	現在の 設備	設備投資 実施割合
	業況	売上額	収益	売上額	収益	料金価格	材料価格	資金繰り	資金繰り							
29.10~12	△ 2.8	3.3	△ 0.6	29.2	18.3	11.7	23.9	△ 15.6	8.4	△ 34.6	△ 9.1	△ 22.3	30.6			
30.01~03	2.8	8.9	1.4	15.2	13.8	6.9	30.5	△ 8.4	△ 2.8	△ 33.1	△ 11.3	△ 26.2	24.7			
30.04~06	△ 14.4	△ 17.5	△ 13.5	△ 28.6	△ 15.1	△ 11.9	7.9	△ 27.8	0.8	△ 33.6	△ 14.6	△ 28.0	33.3			
30.07~09	△ 3.7	△ 6.7	△ 12.7	7.5	4.5	6.0	18.7	△ 16.4	0.8	△ 28.6	△ 10.4	△ 18.7	23.1			
30.10~12	△ 12.1	△ 14.3	△ 20.9	9.9	1.1	5.5	15.6	△ 17.6	7.7	△ 33.0	△ 11.2	△ 29.7	26.4			
31.01~03	△ 8.9															

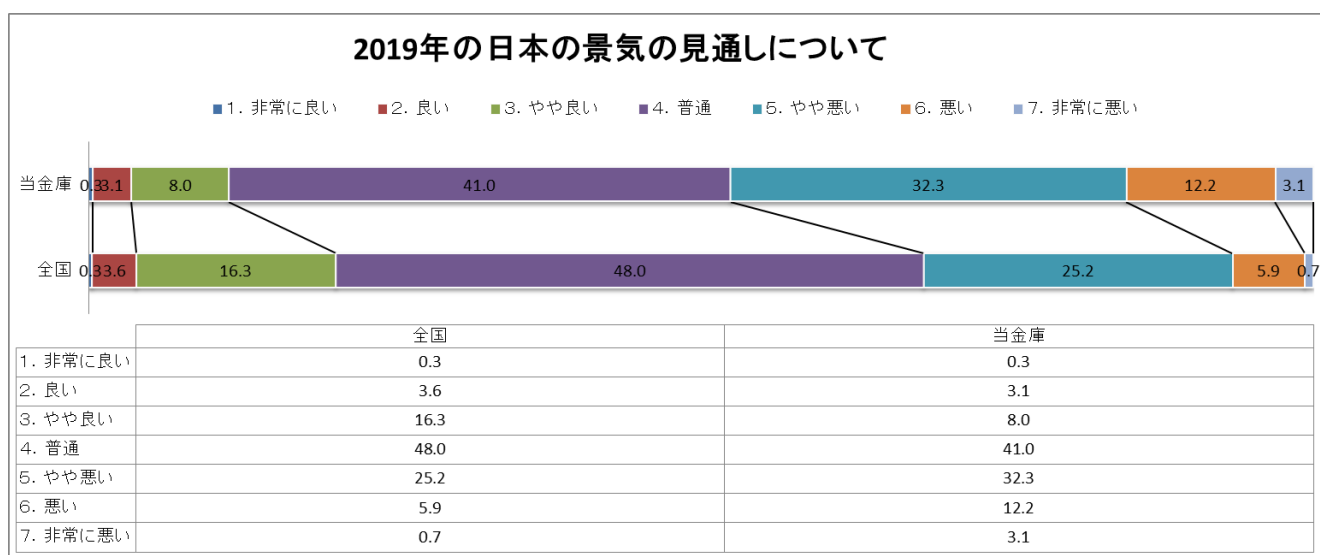
全業種	前年同期に比べた											前期比 残業時間	借入金の 難易度
	業況	売上額	収益	売上額	収益	資金繰り	資金繰り						
29.07~09	△ 14.2	△ 10.9	△ 15.0	△ 1.6	△ 4.6	△ 14.4	△ 1.3	△ 22.1	△ 8.4				
29.10~12	△ 3.1	△ 1.3	△ 4.6	17.9	9.9	△ 13.2	4.2	△ 28.4	△ 6.7				
30.01~03	△ 7.3	△ 3.1	△ 9.3	△ 3.1	△ 6.5	△ 14.7	△ 0.4	△ 29.6	△ 5.0				
30.04~06	△ 16.4	△ 11.9	△ 16.9	△ 17.4	△ 15.8	△ 20.0	△ 1.0	△ 31.9	△ 4.0				
30.07~09	△ 14.2	△ 10.2	△ 12.7	△ 4.1	△ 3.0	△ 16.2	△ 0.5	△ 25.2	△ 8.9				
30.10~12	△ 3.8	△ 11.3	△ 14.8	13.0	5.1	△ 16.8	7.2	△ 29.6	△ 7.8				
31.01~03	△ 12.2												

全国	前年同期に比べた				
	業況	売上額	収益	資金繰り	人手
29.07~09	△ 3.3	△ 0.9	△ 3.3	△ 5.6	△ 22.7
29.10~12	1.2	1.1	△ 2.6	△ 5.4	△ 26.7
30.01~03	△ 2.1	1.2	△ 4.4	△ 6.8	△ 26.9
30.04~06	△ 2.5	0.7	△ 4.0	△ 4.0	△ 26.0
30.07~09	△ 2.1	1.5	△ 3.1	△ 5.1	△ 26.0
30.10~12	4.0	3.6	△ 1.1	△ 5.0	△ 29.9
31.01~03	△ 2.3				

# 《特別調査》2019年の経営見通しについて

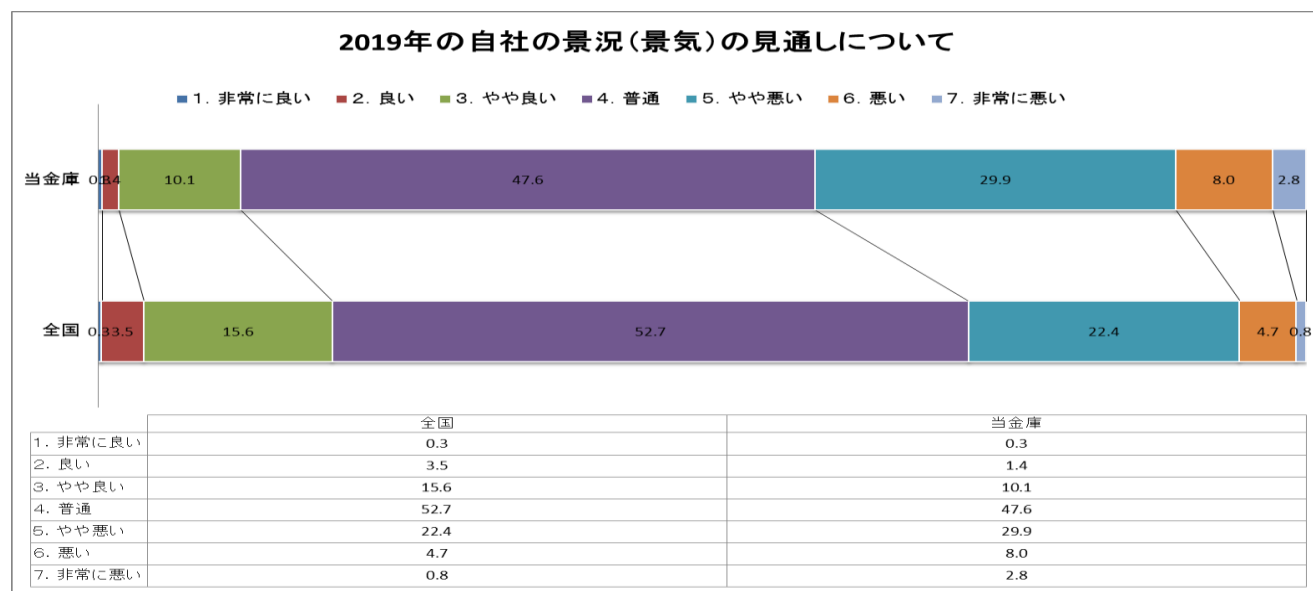
## 【問1】2019年の日本の景気見通しについて

2019年のわが国の景気見通しについては、「良い」（「非常に良い」「良い」「やや良い」の合計）とする回答が当庫 11.4%あり、全国 20.2%と比べ 8.8ポイント少なかった。一方、「悪い」（「非常に悪い」「悪い」「やや悪い」の合計）とする回答は当庫 47.6%あり、全国 31.8%と比べ 15.8ポイント多かった。今回の調査ではその理由についてまで回答を求めておらず理由は不明であるが、全国と比べ但馬管内の事業者は、2019年の日本の景気見通しについては厳しく捉えている先が多いことが窺える。



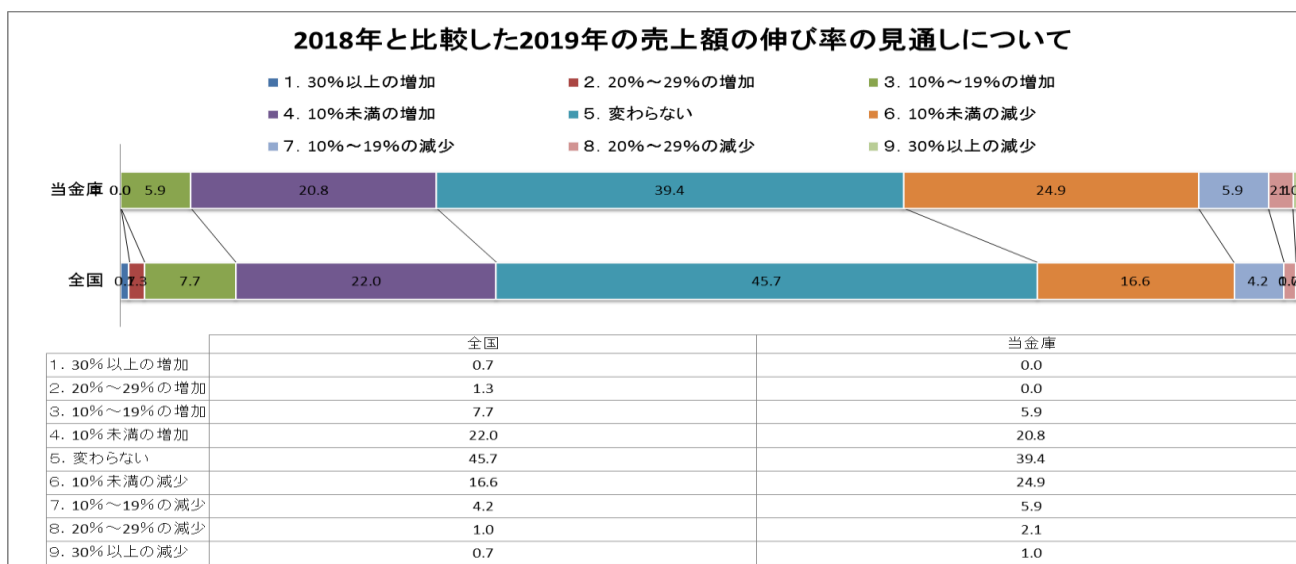
## 【問2】2019年の自社の業況（景気）見通しについて

2019年の自社の業況見通しについては、「良い」（「非常に良い」「良い」「やや良い」の合計）とする回答が当庫 11.8%あり、全国 19.4%と比べ 7.6ポイント少なかった。一方、「悪い」（「非常に悪い」「悪い」「やや悪い」の合計）は当庫 40.7%あり、全国 27.9%と比べ 12.8ポイント多かった。自社の業況（景気）についても、2019年は厳しい経営環境を予想する回答が目立った。



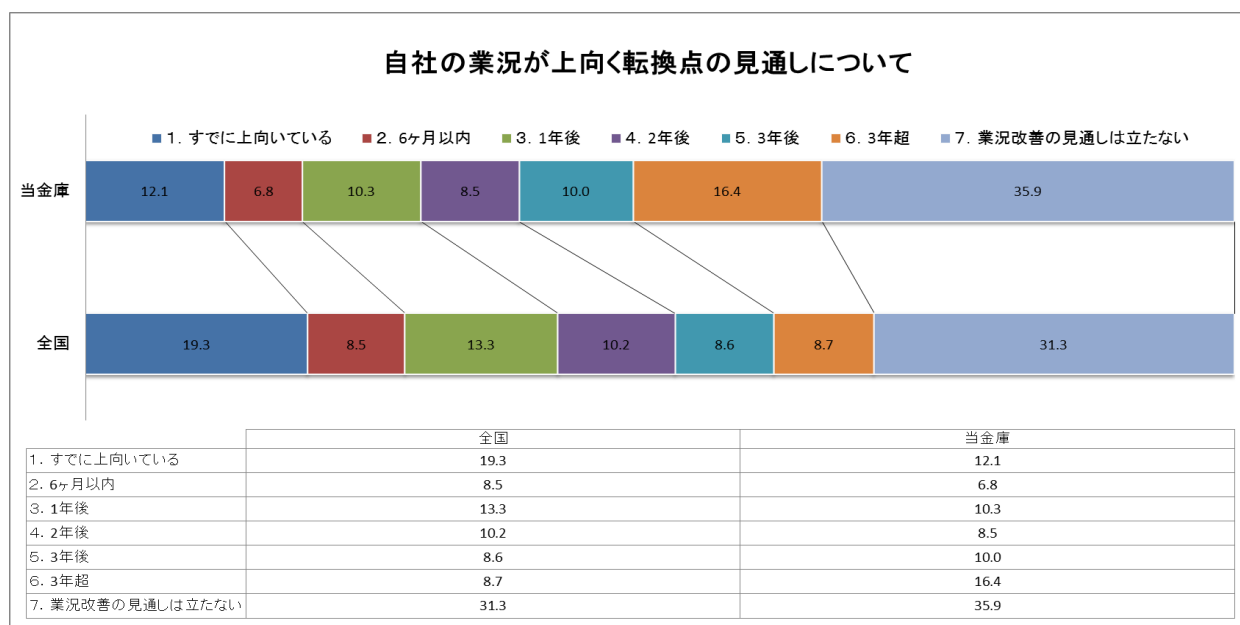
### 【問3】2019年の売上額の伸び率について

2019年の自社の売上額伸び率については、「増加」（「30%以上の増加」「20%～29%の増加」「10%～19%の増加」「10%未満の増加」の合計）とする回答が当庫 26.7%あり、全国 31.7%と比べ5ポイント下回った。一方、「減少」（「30%以上の減少」「20%～29%の減少」「10%～19%の減少」「10%未満の減少」の合計）は当庫 33.9%あり、全国 22.5%と比べ11.4ポイント上回った。理由についてまで回答を求めないが、自社の経営環境は厳しいとするむきも強く、こうした回答となったことが予想される。



### 【問4】自社の業況が上向き転換点の見通しについて

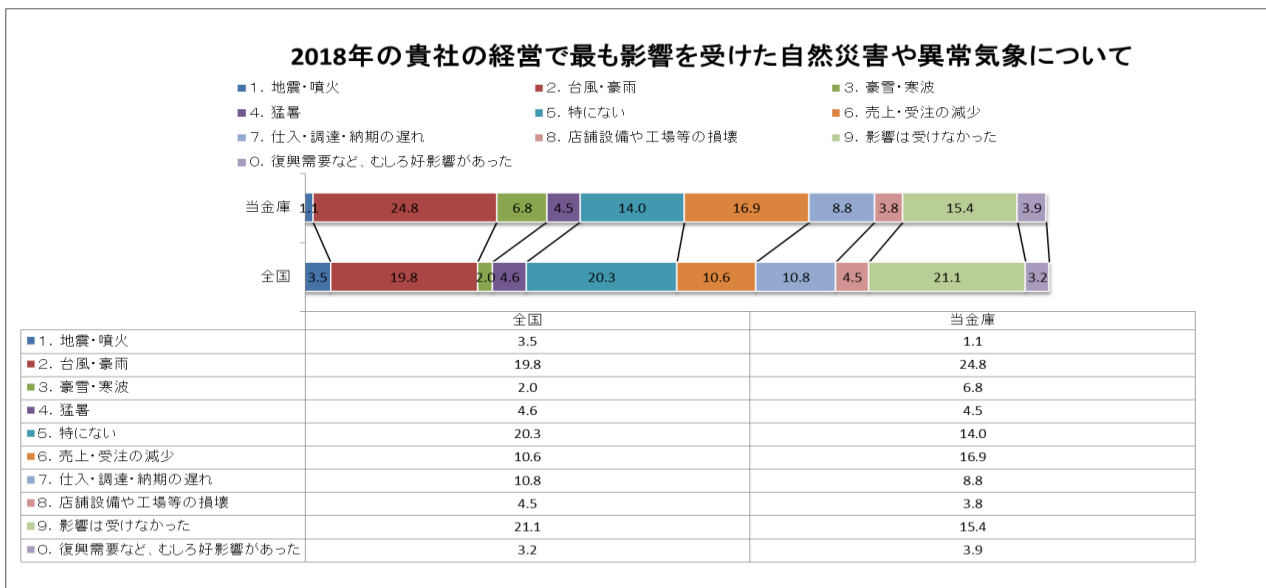
自社の業況が上向き転換点の見通しについては、「すでに上向きしている」とする回答が当庫 12.1%に留まる一方、全国は 19.3%と過去最高の回答割合となっている。また、「業況改善の見通しは立たない」とする回答が当庫 35.9%、全国 31.3%となっており、但馬管内に企業だけではなく全国においても企業の業況の格差が拡大しつつあることが窺える。





## 【問5】自然災害や異常気象の影響について

2018年の経営に最も影響を与えた自然災害、異常気象について、但馬管内の企業は「台風・豪雨」が24.8%と最も高い割合を占め、以下、「特にない」が14.0%、「豪雪・寒波」が6.8%、「猛暑」4.5%と続いた。経営への影響については、「売上・受注の減少」が16.9%と最も高く、以下、「影響は受けなかった」が15.4%、「仕入・調達・納期遅れ」が8.8%と続いた。また、但馬管内の企業でも「復興需要など、むしろ好影響があった」とした回答が3.9%あり、全国3.2%と比べ高い結果となった。昨年、西日本豪雨や北海道・大阪北部の地震等災害が多く発生したが、全国では「影響は受けなかった」とする回答が21.1%もあり、首都圏・大都市で災害発生とならなかったことが要因の一つとして考えられる。



以上

### 参考文献

- ・ 信金中央金庫 地域・中小企業研究所 「第174回全国中小企業景気動向調査」